

にも通信

令和5年度 第9号
令和5年6月吉日

にも 精神障害の有無や程度にかかわらず、誰もが安心して自分らしく暮らせることが
包括 できるよう、包括的なシステムを構築していく取り組み

発行：相模原市精神保健福祉課

6月も終わろうとしています、はじめ、シトシト、梅雨の季節ですね。

いつもなら梅雨空同様にグレーな気分なのですが、今年はレインウェアを新調したのでいくらか気持ちは晴れやかです。

さて、そんな6月を吹き飛ばしてくれたのが、今回特集する「共にここから☆けやきロック2023」。特定非営利活動法人けやきの会さんが主催したイベントです。今年も大盛況のうちに幕を閉じたけやきロック。参加された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。ロックテイスト&裏話多めでお送りいたしますので、ぜひ最後までご覧ください!!

ROCK × けやきの会 = ???

令和5年6月3日(土) あじさい会館のホールで「共にここから☆けやきロック2023」が開催された(入場無料)。当日は280人を超える来場者が集結。就労継続支援B型事業所ブレンド有志によるオープニング「よさこい乱舞」から、けやきの会職員による伝説のバンドI'm historyに至るまでノンストップで駆け抜けた。ラストは50名超が壇上にあがり、振り付き「ヤングマン」で会場一体となった。(右写真)

出演者の背景も様々だ。けやきの会の事業者メンバーが中心となるが、相模原市出身のお笑い芸人「昨日のカレーを温めて」やこの日限りの中学生ダンスユニット「Shiori&Shunta」、三線教室「なかゆくう」など、けやきロックによって繋がった面々が顔を揃えた。



当日の様子やけやきロックの背景について、けやきの会鈴木氏、山田氏を取材した。

鈴木氏) 出演者も参加者も皆が口々に「楽しかった!」と言ってくれたことが嬉しかった。出演者は大勢の観客の前で緊張しながらも、「ウケてよかった!」「やり遂げた!」などと満足気だった。マイク1本で会場をひとつにしてしまうチカラには驚かされた。様々な方が遊びに来てくれたが、中でも行政の方が家族連れで来場してくれたことが嬉しかった。

けやきロックは元々内向きのイベントで、けやきの会の敷地内でBBQをしたり和太鼓などをして盛り上がっていた。その様子が地域の方の目に留まり、足を止めてくれるようになった。「何かできないか」との思いから始まった。コロナ禍では大声で騒げないので、静かになるダジャレを考えたり、150本のけん玉の寄付を募り、来場者にプレゼントしたりした。

山田氏) 事業所の中だけで収まらないことを意識している。普段の活動がどうしてもクローズになりがちなので、イベントではオープンさにも目を向けるようにしている。

鈴木氏) 終わってしまえばあっという間だが、準備には力を入れた。SNSには限界があるため、チラシを5,000枚刷り、ただ配るだけでなく、手渡しにもこだわった。また、来場者には市内に工場がある「ナッティーババリアン」のキャラメルナッツをプレゼントするために協力を仰いだ。地道にやってきたことがこうして返ってきたことを皆と分かち合いたい。達成感とともにまだまだやれるという伸びしろも感じる。つまり、大成功ということですよ(つづく)



(つづく)



〇〇さんに聞いてみた、第2回は表紙でも取り上げた、けやきロックの仕掛け人の一人、鈴木巨介さん。普段は就労継続支援B型事業所フレンドにてご勤務されています。バイタリティー溢れる力の源をひも解いていきたいと思えます。

（早速ですが自己紹介をお願いします）

鈴木 鈴木です。44歳です。平成23年からけやきの会で精神保健福祉士として働いています。今はブレンドのサビ管をやらせてもらっています。

（特技なんかはありますか）

鈴木 ギターを13歳からやっています。音楽で食べていたら良かったのですが…。でも結果的にけやきロックで舞台上立ったのでそのあたりは満足です。あとはけん玉先生の資格も持っている、教えたりもしています。ご存知の方がいるかもしれません。紅白歌合戦でのけん玉キネス記録にも4年連続参加しました。あれは震えますね。

（大切にしていることなど）

鈴木 「食べることは、生きること」をモットーにしています。誰かと一緒に食べる、ということが好きですし、大切にしています。

オススメですか？そうですね。

麻溝台にある「レストランAMI」のオムライスは好物です。ライスがケチャップじやないののでいいですね。月に1回は配達してもらっています。ぜひ1度食べてもらいたいですね。

（ここから本題なのですが、鈴木さんが考える「地域で暮らす」こととは）

鈴木 ん、いきなり難しいですね笑。一言えることは「地域で暮らす」って当たり前のことだと思っていて、ただ、そうではないことも実際にはあったり。以前開催したイベントで、精神障害者のグループホーム開設に反対する運動の動画を上映したことがありました。大なり小なり、こうしたことが身近でも起きているのではないかと。そうしたときに思ったのが「お互いさま」ということ。「迷惑をおかけして」などの言葉を色々なところで耳にするけれど、許容し合いながら、認め合いながら、地域で暮らせたらいいなと。赤ちゃんの泣き声だつて、車の騒音なんかと同じレベル。そういう意味では、けやきロックの会場では、それこそ多様な人たちが集まり、最後には一つになっていくプロセスを味わえた気がします。お互いを認め合う、優しい空間だったなあと感じました。あまり「ロック」ではなかったかもしれないけど笑。

（今後について）

鈴木 けやきロックの開催にあたっては色々な団体や企業の方に力になってもらいました。正直失敗はできないプレッシャーもありましたが、「共にここから」引き続きチャレンジしていきたいと思えます。

9月には公開講座の開催を予定しています。またお知らせしますので、ぜひご参加ください☆

おまけ

取材日当日は第3けやき作業所で「寄り道力フエ」が開催されていました。これは大野台地域包括支援センターとけやきの会が中心となり、地域の方との交流を目的に、レクを持ち寄りながら気軽に参加できるサロンのことです。

この日は総勢40名を超える人数で、ペットボトルを倒すボーリングゲームや頭と体を使った体操、最後は「上を向いて歩こう」を合唱しました。私も混ぜらせてもらいましたが、ボーリングは全然ダメですが、合唱では皆さんから元気をもらい、気落ちすることができまじい♪

（大切にしていることなど）

鈴木 「食べることは、生きること」をモットーにしています。誰かと一緒に食べる、ということが好きですし、大切にしています。

オススメですか？そうですね。

麻溝台にある「レストランAMI」のオムライスは好物です。ライスがケチャップじやないののでいいですね。月に1回は配達してもらっています。ぜひ1度食べてもらいたいですね。



▶紅白歌合戦で見事「けん玉キネス記録」を達成した鈴木さん



次回は10月に開催されるマルシェとの合同開催の予定とのこと。こちらもぜひ寄り道してみたいかがでしょうか。

編集後記

今号では地域で行われているイベント取材しました。実際に足を運ぶことで、より臨場感のある、実感のこもったお話をお伺いすることができました。ご協力ありがとうございました。

実際にけやきロックに参加した方からは、「ダンスを見に来てくれた中学生も、ブレンドさんの出し物とかで爆笑していて、何のイベントか分かってない子たちが、その場において時間を共有できたことが大きかったのではないかな。」との声も。

鈴木さんや山田さんからは、「やはり観に来てくれた人が、純粋に「楽しかった」と言ってくれたことがうれしかった」と繰り返し話されていました。福祉的に見るとエンパワメントやノーマライゼーションというワードになってしまいますが、そういった言葉では言い表せないイベントだったのだろうと感じます。

「来れない人は後悔しますよ～」との鈴木さんのお言葉どおり、けやきの会のこれからに注目しましょう!!

にも包括今年度の取組予定

- ◆協議の場の開催 年2回
にも包括の全体会として、意見交換・情報共有の場とする
今年度は、機関からの取組報告を計画する
- ◆地域移行に係る医療機関と支援機関による意見交換会
地域移行に関する実務者が集まり、意見交換や情報共有を行う
住まいの確保に関する課題についても並行して取り扱う
- ◆地域生活支援関係者等に対する研修
地域で安心して暮らすための支援体制構築に向けた地域生活支援に関わる支援者等に対する研修の実施
- ◆地域移行支援ピアサポーターの活用
長期入院者の地域移行に向けた病院訪問や院内職員向けに地域移行に必要な普及啓発を行う
- ◆630調査やReMHRAD等による構築状況の分析

にも包括は支援機関の皆さまや地域の人たちとともに創り上げていくものです。

事務局では、地域で取り組んでいる活動や耳より情報、好事例などを広く募集しています。

電話でもメールでも構いません。ご意見・ご感想も含めてお待ちしております!!

<精神保健福祉課> ☎ 042-769-9813

✉ seishinhoken@city.sagamihara.kanagawa.jp

